

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270903055		
法人名	社会福祉法人 南生会		
事業所名	グループホーム ハピネス		
所在地	千葉県船橋市古和釜町207番地		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○自然環境に恵まれ、近くの果樹園ではお花摘みや季節の果物(柿・イチジク・ぶどう・ブルーベリー等)を摘むことが出来ます。 それを目的にご利用者側から積極的に散歩に行きたいと言う声が聞かれます。 ○建物は木造平屋建てで木のぬくもりと自然なやさしい光が入り穏やかに暮らすことが出来ています。 外を眺めると、中庭にはさるすべりの木や紅葉などあり、季節感を味わえます。 ○職員は明るく活気があり、いつでもご利用者のことを考えています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ハピネス」は自然が豊富で静かな環境の中にあり、季節毎に変わる景色が入居者の刺激となっている。施設の畑には、季節の果実がなり、入居者が積極的に外出したくなる仕掛けとなっている。施設内は、天井が高く、天窓から十分な採光を得ており、明るく開放的な造りとなっている。また、木造特有の温かみもあり、季節に合わせた装飾を施し、入居者がゆったりと楽しく過ごせる環境作りがなされている。年間を通して、外出会・併設施設やユニット間の交流行事等が実施されており、入居者の生活の活性化につながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事業所の理念とし、事業所の基本方針として地域密着型サービスの意識をふまえている。朝礼時に職員全員で読み合わせをおこない再確認をして業務に入っている。	「個人の尊重」「自立支援」「地域福祉」を主眼とした法人理念及び施設の基本方針を掲げており、入居者の生活の質の向上・地域との交流を目指した支援に取り組んでいる。理念及び基本方針は玄関等に掲示していると共に、職員は毎日読み上げをしており、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との交流を図るため季節のイベント(夕涼み会・秋祭り等)に招待したり近隣の神社の清掃に参加している。その他近隣保育園・中学校の運動会などに参加したり、普段の散歩の際にも積極的に挨拶をしている。	日頃から近隣住民と挨拶を交わしていると共に、来訪や相談等を随時受け付けており、地域住民との交流を図っている。また、ゴミ拾いや祭り等の地域行事に参加する一方、施設行事に地域住民を招待する等、相互の交流が図られている。その他にも、地域の保育園や中学校との交流が行われており、入居者の喜びにつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の問い合わせ時等ご家族が現在抱えている介護の悩みや認知症の行動などの相談に答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアや行事・運営等の取り組みを報告し第三者としての意見交換や情報収集に努めている。24年度は感染症があり、計画した2つが中止となり2月現在2回のみの実施となっている。	地域包括支援センター職員・民生員・地域住民・家族等を構成員として、年に5～6回を目安に運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的には行われていないが、事故の報告は高齢者福祉課に、生活保護者のことで相談があれば生活支援課に連絡している。又生活支援課側から、入居申し込みも多くある。船橋連絡会議では高齢者福祉課の参加もあり質問があれば随時投げかけている。	日頃から市に対して、業務における報告や連絡を随時行っている。また、グループホーム連絡会に加入しており、市との意見・情報交換を行う等、連携が図られている。	

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務で意識をして取り組んでいる。玄関の施錠は日中は原則行っていない。ご利用者への声掛けにも意識をしている。玄関先に何度となく行くご利用者へもご利用者が納得するまでお付き合いしている。	施設の玄関においては、施錠をせず、入居者の自由な生活を支援している。外出の希望があった場合には、職員が付き添う等の配慮がなされている。万が一、やむを得ず、身体拘束を行う場合の説明書・同意書を作成しており、適切な対応が取れるよう万全を期している。	身体拘束排除及び虐待防止における研修の実施・参加を通じて、職員全員がより深く意義を理解し、柔軟な支援が行えるよう取り組んで頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者に対する態度、話し方、認知症を理解するための話し合いの中で意識して行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方については本人や周囲の方と相談する等体制は取るようにしているが、今年度は特にそのような機会はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項説明を十分にさせていただき、その都度質問などにお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などその都度対応している。利用者ごとに担当制を取っており、管理者又は担当の職員が窓口になり意見を聴取している。行事への参加を呼びかけているが、参加される方が偏っており全てのご家族の意見をお聞きすることがやや不十分でもある。	家族の面会時や電話連絡時に、直接意見・要望等を確認している。また、運営推進会議等を活用し、家族以外にも、市や地域住民からの意見・要望等を把握するよう努めている。日頃から手紙や写真を活用して詳しく家族に報告すると共に、話をする機会を多く持ち、意向や要望等を汲み取れるよう工夫している。挙げた意見においては、職員間で周知・検討の上、適切な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間の行事やそれぞれの役割が各職員にあり、積極的に意見が言えるような環境である。日々の業務で気付いたことを業務日誌を通して伝えたり、ユニットノートを活用して職員の提案を反映させるようにしている。	概ね2か月に1回、会議を開催すると共に、連絡ノートを活用して職員からの意見を把握している。また、管理者が個別に職員から話を聞く等、個々の思いや意見を把握するよう努めている。	日々の気付きをノートに記載し、周知を図っているが、今後は会議の開催頻度を見直し、より多く意見交換が出来る場を作って頂く事を期待します。

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員に対しては人事考課を行っている。又内部研修や法人で行われる研修に積極的に参加し向上心を高められる機会を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で行われている認知症研修を始め、法人で行われるリスクマネジメントや感染症予防研修など促し、積極的に参加されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、又役員として役員会議に参加することで同業者との情報共有をしている。高齢協の地域密着サービス部会の役員としても参加し交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接においてご家族・本人への説明を十分に行い、質問などを受けている。入居後は本人との対話を常に心がけ、モニタリングシートを用いて行動や言動をきめこまかく観察し、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点からご家族からの相談を受けている。入居初期の際には必要に応じて出来る限り本人の様子を伝えられるよう電話連絡もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて情報の提供を行っている。中にはグループホームではない他のサービスに申し込みを移行する方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ごとに得意なことなどを見つけ、職員が学ぶ機会を得ている。調理や裁縫、昔のお話など参考になるお話をたくさん聞かせていただいている。		

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を職員だけで決めず、ご家族にも伝えながら、主にご家族に判断を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て本人と馴染みの場所に行ったり、好きな物を食べに行ったりしている。ご家族だけでなく知人や前の介護サービスの人など気軽に足を運んで顔を見に来てくれている。	友人や知人の来訪・手紙のやり取りは自由となっており、馴染みの関係継続を支援している。また、家族との外出・外泊も自由となっており、家族との関係継続にも配慮している。その他にも、畑仕事や読み聞かせ等、個人の趣味・特技・風習を活かせる場を作り、馴染みの生活習慣・生活ペースの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安を訴えたりしている方に対して仲間同士が声を掛けあって励ましあっている姿を見守っている。時に言い合う面も見られるが、大きなトラブルにならないよう職員が中に入りすぎないように見守りつつ、様子を見ながら間に入っている。互いに助ける助けられるを感じることが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去が決まった際も出来る限り対応させていただき旨をお伝えしている。入院している方へはお見舞いに行き様子を見させていたでいる。苑外報などを送らせていただきながら、コミュニケーションを取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	嗜好品の聞き取りなど行い、外食の計画を立てたり、趣味を把握し提供できるようにしている。居室でテレビを観たい、みんなで一緒に過ごしたいなど、それぞれ把握し暮らしている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて、医療機関や他サービスから情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。日々の気付きや生活の様子を連絡ノートに記録し、職員全員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りにて把握に努めている。生活歴表に記入してもらい、職員全員で把握をする。又持ち込み品など馴染みのものをそろえていただくようにしている。		

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の変化や新たな発見が見られた際は個人記録表や業務日誌、ユニットノートなどで申し送って全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の変化が記載されている日々の業務日誌や個人記録をもとに、最終的に計画作成担当者が介護計画を作成している。	連絡ノート・日々の記録等を活用し、職員からの意見を集め、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。入居者の様子や変化は必ずノートや日誌に記録されており、職員間での情報の共有がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全員の記録を毎日記録し些細な変化や発見等を記入し全職員が情報の共有に努めている。その記録をもとに介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会等でその都度お話をし出来るだけ要望に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入れや保育園・小中学校などの行事参加等交流が行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院を基本としご家族の承諾を得た上で決定している。他の病院を希望される方へはそのように対応させて頂いている。困ったことがあれば、電話連絡をして指示を仰げる関係を持っている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、必要に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。定期的に歯科医の往診が行われていると共に、看護師職員や併設のデイサービスの看護師と連携を図りながら健康管理をする等、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスから週1回看護師の健康チェックが行われる。他毎日夜勤明けの職員がデイサービスへ行って申し送りを行っている。その際、介護職では判断できないことなど指示を仰いでいる。		

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にソーシャルワーカーに連絡を取り状況把握をしている。退院の許可が出た際には出来る限りあらゆることを調整し、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設において行えること、行えないことを入居の時点で説明をしている。ADL等の低下が見られてくる場合には他の機関(特養や老健)等と連携を図る体制を整えている。	重度化における指針を明文化し、家族へ説明をしている。状況に応じて医師や家族と相談をしながら、医療機関や他施設と連携を図り、本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症や緊急時の対応などマニュアルを熟知した上で定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。夜間想定、日中の想定など行っている。地域との協力体制は特に行っていない。	定期的に消防避難訓練・設備機器の点検が行われていると共に、スプリンクラー・火災報知機・自動通報器等が設置されており、万全な対策が講じられている。施設は平屋造りで複数の避難経路が確保されている他、緊急時・災害時には併設施設と連携し、適切な対応が取れるよう体制を整えている。	

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや話し方には注意を払い、職員同士でも注意を出来る環境である。	法人理念において「人間の尊重、プライドの尊重、プライバシーの尊重を守ります」と掲げており、理念に基づいた言葉使い・対応を職員全員が心がけている。また、居室に写真入りの表札を掲げる等、プライバシーの保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときにはご利用者の要望を聞いて、又ご利用者に合うものを職員が考え提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるようにしている。お部屋にいる際は活動への参加の促しをするが、出来るだけ出ていただくようには工夫はしても無理強いはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室利用時は個人の希望を言ってもらっている。個々に好きな化粧品や道具など頼まれれば担当が購入している。行事の一つとしてメイクアップセミナーを開催、その際は女性は生き生きと楽しそうに鏡を見てメイクをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・野菜のカット・テーブル拭き・後片付けなど、個々の能力に応じて行っている。男性も楽しそうに積極的に行っている。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。食材や献立作成においては、業者に委託し、栄養バランスに配慮した食事を提供している。また、必要に応じて、フリーメニューの日を設け、入居者の希望に合わせた食事提供もなされている。その他にも、外食会の実施・行事に応じた特別食の提供等を通じて、食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の食べられる量や、制限等でそれぞれで提供している。極端に残している場合は替わりの物を提供するなど工夫している。水分摂取が少ない人に関しては好きな飲み物の提供で工夫している。		

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方へは声掛けを行い、介助や促しが必要な方へはお部屋まで誘導して行っている。訪問歯科医師の助言など仰いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りおむつの使用がないような声掛けやトイレ誘導をして努力をしている。逆におむつを使用することで自立できる方はおむつ使用を勧める方もいる。	排泄チェックリストを活用して、個々の排泄パターンを把握しながら、適切な排泄支援を行っている。夜間においては、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導等を行っており、適切な支援がなされている。また、声掛けの方法やその人に合わせて同姓介助を行う等、プライバシーの配慮にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	にがりやヨーグルト、医療機関で処方される下剤など個々に応じて摂取されている。又運動などで改善出来ている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は施設で決まっているのでその時間帯で入っていただいている。1番目、2番目、3番目等は決めていただいている。	入浴は毎日実施しており、入居者の希望に応じて回数等を調整し、適切な入浴機会を設けている。必要に応じて、部分浴・シャワー浴・清拭等を行い、入居者の清潔保持に努めている。併設デイサービスのリフト浴槽を利用する事もでき、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々にお任せしている。不眠の際には温かい飲み物を提供している。日中寝てしまわれる方へは、活動を促して寝ないで済むようであれば活動に参加していただき、寝たいようであれば、夜にひびかない程度に促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用についてはファイルで見られるようにしてあり、新しい薬が処方された際には申し送りの際に記載している。何か副作用が出た際にはすぐに主治医に指示を仰いでいる。		

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割としてはその方に応じて掃除・洗濯量・調理等行っており余暇の活動の時間には歌や散歩・貼り絵・折り紙など個々の好きなことを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物等は希望があれば、その時点で時間・業務の調整を行い、行けるようにしている。外食や・バスハイクには行きたい場所を聞き取り、行くようにしている。個人外出は今年度中は特にお連れしていない。(特に希望もなく皆が口を合わせて寿司屋の希望などであったので皆で寿司屋に行くなどした)	日頃から散歩・買い物・ドライブ等、戸外に出る機会を設けていると共に、施設敷地内及び周辺に庭や畑があり、季節感を楽しめるよう環境が整っている。また、併設施設・ユニット間との合同行事を企画・実施し、外部との交流が図られている他、外出行事も行われており、戸外での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方に関しては管理していただき、お小遣いから購入している。又管理できない方へも、お財布ごと預かり、買い物の際にそのお財布を持って行く方もいる。他は事務所管理で立替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何か困っていたり家族を心配しているような時には「電話でもしてみたら？」と促し電話する場合もある。手紙を書く人へは切手の在庫があるかなど確認していつまでも手紙を書ける状況を作る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な日差し等はカーテンやブラインドで調整を行っている。壁などには季節感が味わえるような飾りをご利用者と一緒に作成し、うるさくない程度に飾っている。	施設内は、天井が高く、天窓から十分な採光が得られており、明るく開放的な造りとなっている。施設の共有スペースには、椅子やソファが設置されており、入居者が自由にくつろげる環境作りがなされている。また、足漕ぎ機やウォーキングマシンがあり、入居者の身体機能の維持・向上に活用している。	

【千葉県】グループホーム ハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一面の広いリビングなので仕切りなどはないが、テレビ前のソファであったり、中庭側に椅子を置いたりとそれぞれの場所で過ごされている。外に出て玄関前のベンチで過ごしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に出来る限り使い慣れた物を持参するよう伝えており、家具などの配置も以前住んでいたようにしている。食器等も今まで使用していたものを持参していただいている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、安心して生活できるよう配慮している。また、寝具の選択は自由となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。必要に応じて、ナースコールを設置可能となっており、入居者の安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはわかるよう表示がしてある。		